

中美研会報 No. 141

2017.3.1 中越美術教育研究会 事務局／長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959 印刷／(株)中央印刷

県美大会テーマに込めた願い

中越美術教育研究会 会長
立川 厚生



当研究会は、中越地区の幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校から、多くのご支援をいただき、心から感謝申し上げます。事業の開催に当たっては、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からご後援をいただき、また新潟日报社や新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部から多大なご援助をいただき、誠にありがとうございます。

今年度は、8月に「第31回新潟県美術教育研究大会中越大会プレ大会」と「夏季研修会」を兼ねて開催し、12月に「中越教育美術展」、1月に「教職員美術展2017」を行うことができました。また、「中越教育美術展作品集」を刊行し、この「会報」を発行いたしました。会員の皆様の工夫と努力、協力のお陰で、充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

今年度の事業の成果の一つは、「第31回新潟県美術教育研究大会中越大会プレ大会」を開催できたことです。詳しい内容については、次頁をご覧ください。ここでは、大会テーマに込めた願いを述べます。

大会テーマは「HIRAKU」、副題を「かかわり つながり みつめる」としました。子どもたち一人一人は、様々なよさや可能性をもった有能な存在です。その子どもたちが、自らのよさや可能性を生かし、充実した人生と新しい時代を切り「拓く」ために、私たちは、これからの時代に求められる造形教育を創造していきたいと考えます。子どもたちと共に、造形教育を「拓く」志と願いを、大会テーマに託しました。

「HIRAKU」には、このような「拓く」という意味の他に、子どものよさや可能性が大きく花「開く」、学校や教育課程を「開く」、心や自らを「開く」などの意味も込め、アルファベットにすることで、新たな取組への私たちの挑戦の意気込みを表しています。

副題の「かかわり つながり みつめる」は、「HIRAKU」を具現するために、造形活動や造形教育において、私たちが大事にし

ている視点です。「かかわり」「つながり」「みつめる」は、順序性を示しているものではなく、関連をもちながら、スパイラルに続いていきます。子どもたちの造形活動においてだけでなく、私たち教師においても大事にしたい視点です。

「かかわり」は、子ども一人一人が、ひと・もの・ことと主体的にかかわり、造形感覚や感性を働かせて、体全体を使ってイメージを膨らませていくことです。「つながり」は、それぞれの多様性や強みを生かして、ひと・もの・こととつながり、思いや願いを交流し、見方・考え方を広げていくことです。「みつめる」は、自己を振り返り、深くみつめて新たな価値や自分自身を創造することです。

プレ大会を、長岡造形大学と新潟県立近代美術館を会場に開催できたことは、学校を開く意味で意義がありました。連携を図ることで、造形活動の可能性が広がりました。

魚沼市立堀之内小学校6年生の「目に見えない〇〇を表す達人、モネ」では、鑑賞と表現、美術館と大学がつながりました。子どもたちの振り返り作文には、次のようなことが書かれています。「モネの描いた絵を見て、色んな気持ちや人生が伝わってきました」「モネの絵の印象は、友達と一緒にだったり、違ったり、そういう機会はありませんので、いい体験になりました」「ピオトープのスケッチも、モネを想像して描きました」「モネの作品を見て、私も成長したような気がしました」。これらの感想の中からも、子どもたちが、「かかわり つながり みつめる」姿がうかがえます。

インスタレーションの活動では、小・中・高の異年齢の子どもたちが、かかわり、つながりながら、教え合い、学び合いながら、イメージを広げる姿が見られました。造形五・十の市では、造形教育の実践者が、自らを開いて発信し、参加者は、主体的にかかわり、互いにつながりをもつことができました。パネルトークでは、幼保・小・中・高の18年間の学びをつなげる試みを提案し、参加者自身が、自分を見つめ、これからの造形教育について「HIRAKU」ことを考える機会となりました。

このテーマについては、29年8月18日の本大会までに更に研究を重ね、改めて具体的に提案します。ぜひご自分の見方・考え方で捉えていただき、それを参加者同士で交流することで、造形教育のよさや可能性を拓き、深めていただきたいと思います。

平成28年度 中越美術教育研究会 事業内容

- 第1回 研究部会
 - ・平成28年4月27日(水) 長岡市教育センター 県美プレ大会計画
- 第1回 理事会・代議員会
 - ・平成28年5月12日(木) パストラル長岡 会務決算報告・予算事業計画審議 等
- 「第31回 新潟県美術教育研究大会中越大会プレ大会兼第49回 夏季研修会」
 - ・平成28年8月9日(火) 長岡造形大学・新潟県立近代美術館
 - ・参加者 107名
- 第1回 美術振興部会 (中美展委員会・広報委員会)
 - ・平成28年9月9日(金) 上組小学校 審査会計画・作品集・会報原稿依頼等
- 教職員美術展 第1回 実行委員会
 - ・平成28年9月9日(金) 上組小学校 教職員美術展運営計画
- 第2回 研究部会
 - ・平成28年10月12日(水) 上組小学校 県美プレ大会振り返り・県美大会計画
- 中美展1次審査会
 - ・平成28年11月15日(火) 上組小学校 1次審査員35名
- 中美展2次審査会
 - ・平成28年11月22日(火) 上組小学校 福島大学 天形 健 特任教授 群馬大学 林 耕史 教授 埼玉大学 石上 城行 准教授
- 第2回 中美展委員会
 - ・平成28年11月22日(火) 上組小学校 授賞式運営計画等
- 第2回 広報委員会
 - ・平成28年11月22日(火) 上組小学校 作品集・会報原稿依頼等
- 教職員美術展 第2回 実行委員会
 - ・平成28年11月22日(火) 上組小学校 教美展案内発送等
- 第3回 研究部会
 - ・平成28年12月13日(火) 上組小学校 県美大会内容等の検討
- 「第52回 新潟県中越教育美術展」
 - ・会期 平成28年12月21日(水)～25日(日) 長岡市美術センター
 - ・入場者数 3,524名
 - ・応募点数 24,642点 展示点数 753点
 - ・特別授賞式 平成28年12月25日(日)
- 「中越教職員美術展2017～第22回～」
 - ・会期 平成29年1月18日(水)～22日(日) 長岡市美術センター
 - ・出品点数 66点
 - ・入場者数 548名
- 第3回 広報委員会
 - ・平成29年1月31日(火) 上組小学校 中美作品集の校正
- 第2回 理事会
 - ・平成29年2月15日(水) 上組小学校 各事業の反省と次年度への提言
- 「第52回 新潟県中越教育美術展・作品集」の発行
 - ・作品集 第26集 発行
 - ・中美研会報141号 発行

第31回 新潟県美術教育研究大会中越大会プレ大会 実施報告及び、来年度の県美大会に向けて

県美プレ大会を振り返って



大会実行委員長 小林 学

平成 28 年 8 月 9 日、中越美術教育研究会の夏季研修会が、新潟県美術教育研究大会中越大会プレ大会という形で開催されました。当日は、100 名を優に超える参会者を得ることができました。

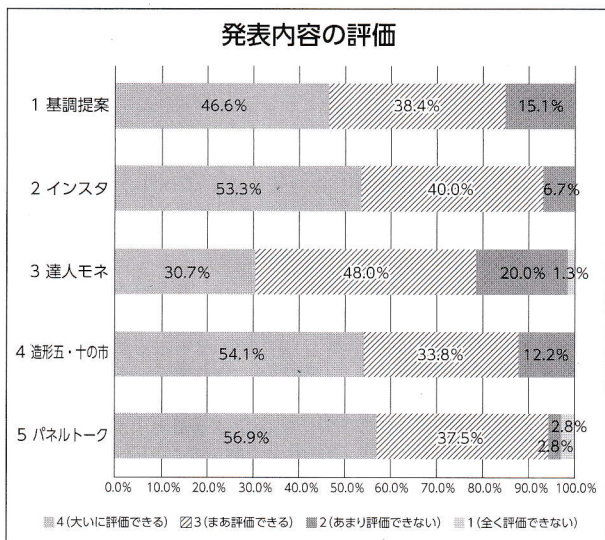
当大会では、「社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの人生を自ら切り拓く人づくり」を視野に入れ、大会テーマを“HIRAKU ～かかわり つながり みつめる～”と掲げました。当日は、小・中学生、高校生によるインスタレーション、県立近代美術館を活用した鑑賞授業、日常実践を交流する造形五・十の市、幼保・小・中・高のつながりを探ったパ

ネルトークなど多角的な切り口から、テーマに迫っていきました。また、近代美術館におけるモネ展や長岡造形大学に常設される丸山正三展の鑑賞及び造形大学の学食での昼食もセットにして、まさに、“HIRAKU” にふさわしい一日となったのではないかと思います。

プレ大会の参会者からのアンケート結果と、主なご意見やご感想を以下に示します。

研究内容への鋭角的な切り込み方や理論と実践の接合等については、平成 29 年度の本大会に課題として残りますが、これまでの研究会の型を変革しようとする姿勢は伝わったのではないかと自負しております。

最後になりましたが、当大会を開催するに当たり、近代美術館様、長岡造形大学様、教育委員会様を始めとする多くの皆様方のご尽力・ご支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。



- ・インスタレーションでは、初め何も描かなかった小学生が、後半は（異年齢の）仲間と一緒に楽しそうに形づくり描く姿や表情が良かった。
- ・造形五・十の市でたくさんの教材や案に出会い、刺激を受けた。よい企画なので、もっと交流を広げたい。
- ・盛りだくさんな内容で、一日、芸術や美術教育に向き合う研修会だった。
- ・様々な先生方のお話や企画によって、自分の心も「ひらかれた」ように感じた。造形する楽しさを一緒に味わえるような授業をしていきたい。
- ・“HIRAKU” は、今後の美術教育の大切な見通し、合い言葉になる。
- ・各企画が“HIRAKU” とどうつながっているのか、子どもにとってどんな良い点があるのか、今一つ分かりづらかった。本大会に期待する。

目に見えない〇〇を表す達人、モネ ～美術館での鑑賞から 生まれる児童の発想や構想～



魚沼市立堀之内小学校 金澤 健志

「やりたい」「やってみたい」という気持ちを引き起こすきっかけの一つに「本物との出会い」がある。美術館での鑑賞活動は、児童に多くの刺激を与え、発想や構想を引き出す。「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」(以下「モネ展」)を鑑賞し、そこで感じ、見付けたことを、思いのままに表そうとする意欲につなげるのが本実践である。

1. 題材名「目に見えない〇〇を表す達人、モネ」

第6学年「B鑑賞(1)」「A表現(2)」

2. 目標

独自の表現を追求したモネ。「モネ展」鑑賞を通して、表現の多様性や試行錯誤する楽しさを味わい、思いを表す自分なりの新たな方法に見通しをもつ。

3. 実践の概要

(1)美術館での「モネ展」鑑賞

新潟県立近代美術館で「モネ展」を鑑賞した。これまでに美術館を訪れた経験のない児童が、絵に吸い込まれるように見入っていた。霧を表す緻密さや、水面を表す大胆な筆跡に感嘆したり、年を取ったモネの画風の変化も敏感に感じ取

たりしていた。

(2)友達との意見交流

鑑賞中にメモしたワークシートを基に、意見交流を行う。「よく見て描いていると思うもの」「想像で描いていると思うもの」等のテーマで話し合った。「モネは『一瞬』を表そうとした」等、モネが対象を鋭く観察していたことに着目した意見が多かった。

(3)ビオトープでスケッチ

鑑賞と意見交流に引き続き、自然を描くことをテーマにスケッチする。水面の反射やトンボの動き、風に揺れる草木を見付け、それらをよく観察して描いた。「自然の爽やかさ」や「命の大切さ」等の思いを表そうと、構図を工夫する姿も見られた。

4. 成果と課題

児童のスケッチには、モネの緻密さや大胆さが表れていた。モネがそうしたように、自然をよく観察し、自分なりに表そうとしていた。鑑賞により、自然を見つめる視野と表現の幅が広がった。

美術館での鑑賞の楽しさを味わう経験を積ませたい。本物を鑑賞することが発想や構想に与える効果を認識し、美術館での鑑賞を推進していきたい。



ビオトープでのスケッチ

異年齢間の心を開く インスタレーション

見附市立西中学校 齊藤 博文



今回のインスタレーションは長岡造形大学のデッサン室という広い空間を得て、「何でもできる」というのが強みでもあり悩みでもありました。自然の材料の持ち込みはできないようなので、立体の造形構造の工夫に加えて、彩色活動に「ゼンタングル」を取り入れることにしました。ゼンタングルは①誰にでもできて②教え合え③発展的に造形できる、という特徴があると思ったからです。

立体的な造形の構造・デザインをどうするか、長岡商業高校の美術部の皆さんと相談しました。長商の皆さんは大型の段ボールを支持体とすることにして、マケットをつくっていただきました。門のような、城壁のような魅力的なデザインとなりました。次に、ゼンタングルの彩色を一緒に考え、グラデーションで覆う、という方針が決まりました。当日は絵の具を混ぜて調色し、小中学生の配置も決め、指導していただきました。

中学生は関原中学校の美術部の皆さんです。関原中の皆さんは、あらかじめゼンタングルを描く練習を積み重ねてくれました。当日スイスイと描いていく姿がかっこよく、小学生もそれを見てすぐに

理解でき、とてもよかったと思います。大島小学校の6年生の皆さんは、夏休み中にもかかわらず、この制作に進んで参加してくれました。最初はごちない作業でしたが、中・高生の指導であっという間に上達し、一番楽しんで描いていました。「誰かが床にも描くだろうなあ」と考えていましたが、真っ先に床に描き始めたのは小学生です。

制作は3時間ほどでしたが、あっという間に感じ、長商の皆さんがつくった「太陽」と「月」をのせると「おー、かっこいいー!」ちょっと心がドキドキしました。そして、改めてインスタレーションの制作はコミュニケーション活動を自然に促し、児童・生徒間の心を開かせるに有効な題材であると感じました。

今回の制作は高校生の優れた構想のもと、想像以上に美しい作品を生み出し、小学生も中学生も(参観者も)夢中で取り組むことができました。また、来年度への課題も明確になりましたので、改善に努め、さらに面白い空間づくりと、さらに緊密な児童・生徒間の結び付きを実現できるようにしたいと思います。



今年度の造形五・十の市を 振り返って

見附市立南中学校 恩田 康一



造形五・十の市は、造形教育の実践を発表する場です。一つの実践を一枚のパネルにまとめて展示します。そして、その会場に集まった先生方が普段の実践について語り合う場です。

大会のテーマは「HIRAKU ~かかわり つながり みつめる~」です。子どもたちが感動した場面や素材の面白さに出会い、表現しようと思う気持ちを膨らませ、どうやって表現しようかと試行錯誤する。その中で更にひと・もの・ことと対話し、自己の表現を吟味する姿。造形活動を通してこのような姿が子どもたちの中からたくさん出てくるため、「普段どのようなことをしていますか?聞かせてください」というコンセプトのもとで発表していただきました。

そして今回のプレ大会では、15点(店)の発表がありました。題材についての発表や、道具の使い方、素材のよさについての提案など、様々な視点から先生方が造形教育の魅力を伝えていただ

きました。

展示会場には先生方が50名程集まりました。展示されたパネルを囲んで提案者の話を聞いたり、普段の授業の在り方について情報交換をしたりと、実際の市場さながらに賑わう様子が見られ、充実した時間を過ごすことができました。

事後のアンケートでは「展示をした提案者も他の提案者の話を聞きたい」「パネルを大きくした方がよい」などの前向きな意見をたくさんいただきました。先生方相互の交流が一層深まるように改善していきます。

造形五・十の市は子どもたちの「HIRAKU」を実現するための提案発表の場であると同時に、先生方の「HIRAKU」を実現させるための場でもあります。来年度の本大会では、全県からたくさんの実践が集まり、そして先生方が造形教育について大いに語り合える場ができるようにしたいと考えています。



第31回 新潟県美術教育研究大会 中越大会に向けて

研究局長 永井 毅人



新潟県美術教育研究大会中越大会プレ大会に県内の多くの皆様からご参加いただき、ありがとうございます。大会アンケートにご記入いただいた皆様からの声を参考に、平成29年度の本大会の構想を進めております。

まず、本大会では、聖徳大学教授、前文部科学省教科調査官 奥村高明氏より、講演をいただくことが決定済みであることをお知らせします。

それだけでも、本大会への参加動機が高まるわけですが、その他、現段階では、中越大会として以下のような提案をさせていただきたいと考えています。

1 子どもの姿で主張し、語り合う大会に

大会テーマ「HIRAKU ~かかわり つながり みつめる~」は、端的な言葉が並んでいるため、参会の皆様から受け取られた印象に幅があり、「わかりにくい」「詰めが甘い」という指摘もい

ただきました。向こう30年先の世界情勢を見据えた新学習指導要領の本格実施に向け、造形教育を通じた未来を切り拓く人づくりを提案したい。そして、参会いただいた皆様と意見交流し、未来の造形教育をつくる同志としての絆を深めたいと考えております。

そのために、夏季休業中の開催ではありますが、造形活動に取り組む各校種の子どもの姿で、より具体的な提案をします。協議会は、ご覧いただいた子どもの姿から、テーマに関わる考えを交流したり、お互いの実践を紹介し合ったりする場としたいと考えております。

2 教師も「かかわり つながり みつめる」大会に

「造形五・十の市」は、実践アイデアの情報を得る場として、参会の大勢の方から好評を得ました。

平成29年度の本大会では、この「造形五・十の市」が情報を得るだけでなく、さらに私たち教師も自らをひらき、かかわり、つながり、みつめる存在となる時間にできればと思います。広く情報を取り入れたい、交流したりし、造形教育者のネットワークを広げる場として「造形五・十の市」を展開していこうと考えます。

そのために、上・中・下越各地区の参会いただける方に、広く市への出店者を募集いたします。1パネルにまとめた実践や授業・教材アイデアを持ち寄り、ワークショップ形式で参会者と語り合います。

皆様のご参会を心よりお待ちしております。

中越教職員美術展2017～第22回～

●会期／平成29年1月18日(水)～22日(日)
 ●会場／長岡市美術センター（長岡市立中央図書館2階）
 ●主催／新潟県中越美術教育研究会

●後援／長岡市教育委員会 新潟日報社
 一般財団法人 新潟県教職員厚生財団
 公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名	出品者
1	妙高初冠雪	F50 池上 秀敏 元教職員
2	海景I	P80 結城 和廣 長岡造形大学
3	海景II	F10 桑原 收 元教職員
4	コンチェルト(協奏曲)	P60 石川 吉郎 大石福祉会こぼと
5	北のセメント工場	F100 丸山 一夫 長岡大手高等学校
6	十一面観音像	F100 阿部 勝則 小千谷西高等学校
7	横たわる	154.5×72.8
8	明け	M20 藤本 市郎 羽羽村立羽羽中学校
9	想い出の街角	90.5×110 水落 裕子 元教職員
10	魚野川河岸待春	F50 小林 学 長岡市立黒条小学校
11	魚野川河岸待春-雪晴れの日-	F50 中嶋 均 元教職員
12	アルパム	F8 上坂 義則 元教職員
13	景2017-1	F20 三上 祥司 元教職員
14	憩う 少数民族の人達	F20 小沼智恵利 元教職員
15	トンチャク	B2 田村 敏宏 長岡市立西中学校
16	放蕩息子	25×40 森山 みさ 堀之内高等学校
17	謹賀新年1	四つ切り
18	謹賀新年2	四つ切り
19	風景画	F30 濁川 徳一 長岡市立十日町小学校
20	旧家の堀	F10 南雲 学 小千谷市立総合支援学校
21	桐生川源流林	F10 佐藤久美子 小千谷市立千田小学校
22	窓	P50 田中 大志 長岡市中之島中学校
23	ゴッホの世界を感じて	F8
24	曼珠沙華	20×30 石黒 裕子 長岡市立西中学校
25	因果	90×60 丸岡 昭子 長岡市立太田中学校
26	机の上の緑星	F15 高橋 淳一 見附市立今町中学校
27	赤いスカート	F10 金澤 健志 魚沼市立堀之内小学校
28	空-2016.9	F30 堀田 正 北陸学園
29	見上げて-2017.1	F20 宮澤 正樹 長岡明德高等学校
30	サン・クルー教会	30×90
31	ひなた	40×40×50
32	花1	F10
33	花2	B3

No.	題名	出品者
34	蓮	F10 永井 美紀 長岡市立山本中学校
35	ゼンタングルやってみた(37days)	90×110 峰村恵利子 長岡市立高等総合支援学校
36	宵闇・交差点・軌跡	116×51 中村 信 見附高等学校
37	Breath '16-1	130×90 田中 幸男 小千谷西高等学校
38	Breath '16-2	130×90 溝口 敏美 長岡高等学校
39	コスモ1	F50
40	コスモ2	F50
41	無題	F100 阿部 亮平 塩沢商工高等学校
42	無題	P6 齊藤 博文 見附市立西中学校
43	夢VII	25×25×50 村山 裕之 十日町市立中里中学校
44	古の月	40×45×30 霜鳥 健二 加茂高等学校
45	構成-2017	30×25×120
46	check	(10×10)×4 黒井美智子 見附市立名木野小学校
47	dot	(10×10)×4
48	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	岡地 大輔 長岡市立宮内中学校
49	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	橋本 徹 長岡市立東中学校
50	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	西澤 憲雄 長岡市立上川西小学校
51	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	市村 和子 長岡市立浦瀬小学校
52	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	竹田 祉薫 長岡市立越路中学校
53	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	木下由美子 柏崎特別支援学校のさく分校
54	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	立川 厚生 長岡市立上組小学校
55	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	鈴木ひとみ 長岡市立上組小学校
56	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	中俣 千夏 長岡市立上組小学校
57	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	畑 深雪 長岡市立日越小学校
58	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	五十嵐由美子 長岡市立上組小学校
59	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	比後 慎一 長岡市立刈谷中学校
60	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	吉野 京子 長岡市立旭岡中学校
61	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	巻口 礼子 長岡市立東北中学校
62	薄月の友	20×25×15 石黒 裕子 長岡市立西中学校
63	音声菩薩	32×11×11 上坂 義則 元教職員
64	アロワナ	20×40×40 齊藤 博文 見附市立西中学校
65	明日へV	50×20×60 柴野ひさ子 柏崎市立半田小学校
66	ありがとう	22×21×43 立川 厚生 長岡市立上組小学校

『中越教職員美術展2017～第22回～』について

中越教職員美術展 実行委員長 村山 裕之



会期：平成29年1月18日(水)～22日(日)
 会場：長岡市美術センター

今年も、会期中の降雪という天候でしたが、足を運んでいただく方も多く、来場者総数は昨年を上回り、548名となりました。常連の来館者も増え、教美展の魅力が広がっていることに感謝しています。

今年の出展者数は50名で出品点数は66点。昨年よりも数は若干減りましたが、変わらぬ大作揃いで、充実した展覧会となりました。

今年度も、平面作品は身近な風景や人物、抽象的な絵画等、対象も表現方法も多彩でした。立体作品も石や鉄、テラコッタ粘土、ミクストメディアの作品等、パリエーションも豊富でした。今回、退職された柴野ひさ子先生の彫刻と中嶋均先生の絵画に目が留まりました。それまで、お忙しい時間を削りながらの制作だったと思われませんが、今まで以上に、じっくりと表現にこだわったり、新たな挑戦をされたりしているように感じました。

また、長岡市三島郡美術教育研究会の実技研修会に参加された方々の作品にも目が留まりました。参加される

方々の中には、美術専科でない方もいますが、リピーターも多く、回を追うごとに技術も巧みになってきていることに驚かされました。実技研修を通して美術やものづくりの魅力を感じてもらえることは嬉しい限りです。

日常をじっくり観察したり、構想を練ったり、想像の翼を広げたりする時間は心を豊かにしてくれます。キャンバスや粘土等に向き合い、制作に没頭できる時間は至福の時間です。学校では、図工・美術の時間が減りつつありますが、大人になってから創作に目覚める人は多くいます。多くの人に、創り出す喜びを発信するためにも、先生方の表現や行為が、子どもたちや周りの人たちに大きな感動や豊かな感性を育む一助となっていると確信しています。

最後に、展示や搬出にご協力いただいた皆様、事務局のご尽力並びに葵屋画材店様からの多大なるご協力に、心から御礼申し上げます。

今後も本展がさらに充実し、発展していくことを願っております。